

## 黒川清同窓会会長からの挨拶



UCLAに学んだ人たちの集まり、これがこのAlumni Clubです。グローバル時代の世界で、このような「個人」人生の一部はより貴重な経験、価値になりつつあります。つまり組織を超えた「個人」のつながりの「dot」の一つだからです。どの組織でも同じかもしれませんが、今までの海外留学体験はどちらかといえば、当時を懐かしむ機会であったことが多かったのではないのでしょうか？それは「タテ」社会、「タテ」組織、「肩書き」社

会ではこのような経験は例外的な、「個人」にとっての共通体験だったからです。「タテ」組織ではその体験がそれほど評価されたわけではなかったのです。

グローバルにフラット化がすすむ時代、当然のことですが「タテ」社会の価値は崩れはじめています。横に広がる「dots」が世界に広がる大きな価値になってきているのです。これに対応できない日本の「タテ」社会の弱体化が見て取れます。

この数年、UCLA Alumni Clubは、UCLAとの連携も密にしつつ、国内では活動を他のUniversity of California同窓会と連携した企画を開催し、他大学、他国にあるUCLA、UC Alumni活動との連携もとりながら、

「ヨコ」へ広がる機会を増やす活動を試み始めています。このような活動は皆さんの日常の「タテ」活動へのユニークな機会を提供し、新しい動きにもなることを期待しています。このような活動に参加することから、みなさんの人生の新しい展開のきっかけを作って欲しいと思っています。

UCLA Alumni Associationは、あなたの「Connecting dots」の機会になろうとしています。皆さんの積極的な参加、ご意見、支持、関わりを頂きたいのです。

黒川 清

<http://www.kiyoshikurokawa.com/>

<http://www.kiyoshikurokawa.com/en/>

## 2010年のWestwood Reunionの紹介

UCLA同窓会年次総会とWestwood Reunionが今年も11月12日（金）東京21cクラブで開催されます。UCLAでは今年バスケットボールの名コーチであったJohn Woodenが99歳で亡くなり、全米でニュースとなりました。UCLA本校では追悼式も行われました。今年のWestwood ReunionではJohn Woodenに会ったことのある数少ない日本人でありUCLAバスケットボール史上初の外国人マネージャーを在学中に務めた横山匡さんにご自身のこと、John Woodenの教えについて話し

て頂きます。また、女性スピーカーとしてUCLAの文化人類学部卒、コロンビア大学の修士号を取得され現在は国際協力や開発プロジェクトの企画・支援をされている横内陽子さんにお話をして頂きます。国際協力の現場での経験、発展途上国で実際に何が起きているのか、とても刺激的な話が聞けるはずですよ。詳細は紹介欄での自己紹介を掲載しましたのでご覧ください。お誘い合わせの上、ご参加ください。



### Westwood Reunionのスピーカー 横内陽子 文化人類学 '97

タイトル：国際協力を仕事にして

高校卒業後、サンフランシスコ郊外のサンマテオ短期大学に入学。1995年にUCLAに編入し文化人類学を専攻、1997年卒業。その後、アーサーアンダーセンにて情報管理の仕事に携わった後、再渡米し、コロンビア大学国際行政大学院にて国際問題の修士号を取得。現在は日本財団国際協力グループにて主にアジアの途上国における開発問題に携わっている。

UCLA総会においてスピーカーをさせていただく機会を賜り、光栄です。ちょっと緊張してしましますが、よろしく願いいたします。

私は、現在日本財団の国際協力グループに所属しています。ここでは、国際機関、各国政府、NGO、メディアなどと協力し、年間60件ほどの国際協力/開発プロジェクトを企画・支援しているところです。

社会起業活動が注目を浴びる昨今。国際協力業界は、以前のように国際機関や慈善団体、ボランティアたちだけでなく、企業や起業家、デザイナーなど、幅広い層の人々によって構成されるようになりました。今回の総会では、国際協力活動の今を、社会起業家たちによるBOPビジネス※と呼ばれるユニークな挑戦や、日本財団の活動例を

引きながら、お話できたらと思います。

私がカリフォルニアに渡ったのは18の歳でした。その後の5年間は、私のこれまでの人生のなかでも最も忘れがたい、貴重な時間になりました。最も感動したのは、英語もわからない外国人の小娘に誰もが対等な立場で話しかけてくれたこと、そして無限のチャンスを提供してくれたことです。個人を尊重し、受け入れ、頑張れば頑張っただけ成果を得ることができる喜びというもの、私はここで初めて知りました。お陰様で勉強や遊びに全力投球する楽しみを覚え、インターナショナルクラブの幹事をし

